



日程	学科・課程 コース (専攻)	個別試験																配点比率	備考								
		外国語			国語		数学					理科				総合問題	小論文			実技	面接	調査書	その他	満点	教科数		
		コミュニケーション英I	コミュニケーション英II	コミュニケーション英III	英語表現I	英語表現II	国語総合	国語表現	数学I	数学II	数学III	数学A	数学B	物理基礎・物理	化学基礎・化学											生物基礎・生物	地学基礎・地学
前期	学校教育課程 幼小連携教育コース	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△										400	2	9:4	数Bはベクトル・数列		
	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主専攻	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△										400	2	9:4	数Bはベクトル・数列		
	学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主専攻	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△										400	2	9:4	数Bはベクトル・数列		
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース [3科目型]																		◎			500			5:5	実技試験は描写表現	
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース [4科目型]																		◎			400			6:4	実技試験は発想表現	
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース																		◎			400			7:4		
	経済学科 経営学科 経済法学科	○	○	○	○	○																100	1	7:1			
	医学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎	◎	400	3	63:40	数Bはベクトル・数列	
	看護学科																			◎	◎	◎	260			65:26	
	数理科学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎		600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	物理科学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	知能情報システム学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	機能物質化学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	機械システム工学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	電気電子工学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	都市工学科	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					600	3	9:6	数Bはベクトル・数列	
	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科	○	○	○	○	○			◎	◎		◎	◎									400	2	6:4	数Bはベクトル・数列		
	後期	学校教育課程 幼小連携教育コース	○	○	○	○	○													◎			400	1	10:4		
学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主専攻		○	○	○	○	○													◎			400	1	10:4			
学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主専攻		○	○	○	○	○													◎			400	1	10:4			
芸術地域デザイン学科 芸術表現コース																				◎		300			5:3	実技は描写・発想表現から1	
芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		○	○	○	○	○															◎		300	1	6:3	その他は問題解決・提案力テスト	
経済学科 経営学科 経済法学科																				◎		100			7:1		
医学科																				◎	◎		280			63:28	出願後に自己推薦書を提出
看護学科																				◎	◎		280			59:28	
数理科学科									◎	◎	◎	◎	◎										400	1	6:4	数Bはベクトル・数列	
物理科学科																							400	1	6:4		
知能情報システム学科								△	△	△	△	△	△	△									400	1	6:4	数Bはベクトル・数列	
機能物質化学科																					◎		400	1	6:4		
機械システム工学科								◎	◎	◎	◎	◎											400	1	6:4	数Bはベクトル・数列	
電気電子工学科								△	△	△	△	△	△	△									400	1	6:4	数Bはベクトル・数列 物理基礎・物理・ 化学基礎・化学は出願時に選択	
都市工学科																					◎		400	1	6:4		
応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科								◎	◎		◎	◎											200	1	55:20	数Bはベクトル・数列	

【表の見方】  
 ① ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目、◇は複数教科受験可能で、高得点採用の科目。  
 ② 配点に( )を付している場合は選択教科。配点比率は大学入試センター試験と個別試験の配点比率を表示。  
 ③ 大学入試センター試験では「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」は必ず2科目セットでの選択が必要。この場合の科目数は2つ合わせて「1科目」として扱う。  
 ④ 大学入試センター試験の理科における受験パターンをA～Dで表示。Aは基礎2科目、Bは基礎2科目又は専門1科目、Cは基礎2科目及び専門1科目、Dは専門2科目。  
 ⑤ 大学入試センター試験外国語の英語とリスニングはセットで1科目と見なす。リスニングの配点は外国語満点の20%とする。  
 ⑥ 面接は評価が低い場合は不合格とすることがあります。

## 平成30年度特別入試(推薦入試)出願資格・選抜方法

出願資格・出願要件(全学部共通)						
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長*が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す						
学部	学科・コース等	方式	募集人員	セ試	出願要件	
教育学部	学校教育課程 幼小連携教育コース (特別支援教育専攻)	推薦I	5	×	(1) 将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (2) 高等学校の調査書における評定平均値が3.8以上の者	
	学校教育課程 小中連携教育コース (初等教育主専攻)	推薦I [佐賀県枠]	5		(1) 佐賀県内の高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲、資質、適性等を有する者 (3) 高等学校の調査書における評定平均値が4.3以上の者	
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	推薦I	5	×	学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現や当該分野に関して興味関心がある者、又は優れた経験・知識・技術・実績及び熱意があると評価される者	
経済学部	経済学科	推薦I [商業系]	10	×	(1) 全体の評定平均値が4.3以上で、人物、学力について優れる者 (2) 平成29年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む	
	経営学科		20			
	経済学科	推薦I [普通系]	10			(1) 社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ全体の評定平均値が4.0以上の者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者 ① 成績優秀な者(外国語については評定平均値4.3以上) ② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者 ③ 個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を充分に発揮できると評価し、推薦に値すると思われる者 (2) 平成29年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む
	経営学科		10			
経済法学科		10				
医学部	医学科	推薦II [一般枠]	20	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成29年4月以降に高等学校の卒業を認められた者を含む	
		推薦II [佐賀県枠]	23		(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者又は平成28年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ① 佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 ② 佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者が佐賀県内に平成29年10月1日現在で3年以上在住している者(出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認) (4) 大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修(2年)を受けることを確約できる者	
		推薦II [長崎県枠]	1		(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者又は平成28年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ① 長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者 ② 長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 (4) 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内医療機関等で診療に従事することを確約できる者	
看護学科	推薦I	20	×	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成29年4月以降に高等学校卒業を認められた者を含む		
理工学部	知能情報システム学科	推薦I[情報系]	2	×	学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者	
	機能物質化学科		2			
	機械システム工学科	推薦I [工業系]	5			
	電気電子工学科		4			
	都市工学科		4			
	物理科学科		2			
	知能情報システム学科	推薦II [普通系]	3			5-7
機能物質化学科	10					
機械システム工学科	10					
電気電子工学科	4					
都市工学科		10				
農学部	応用生物科学科	推薦I [専門系]	3	×	(1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 学習成績概評が◎として推薦できる者	
	生物環境科学科		3			
	生命機能科学科		1			
	応用生物科学科	推薦I [普通系]	7			
	生物環境科学科		12			
生命機能科学科		4	学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者			

※ 出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件(全学部共通)に記載した学校及び施設を示す。

※ 「セ試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

※ 「基礎学力・学習力テスト」ではタブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います。

学部	学科・コース等	方式	募集人員	セ試	出願要件
医学部	医学科	佐賀県推薦入学	2	5-7	(1) 佐賀県が責任をもって推薦できる者(佐賀県による第一次選考合格者) (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内での医療活動に従事し、県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者若しくは平成27年4月以降に卒業を認められた者、又は、高等専門学校第3学年を平成30年3月修了見込みの者若しくは平成27年4月以降に修了した者で、いずれも高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である者(高等学校には、中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む) (4) 最終合格者は、必ず佐賀大学医学部に入学し、卒業後は佐賀県内で医療に貢献することを確約できる者

提出書類	段階	試験				その他要件等
		試験方法	出願期間	試験日	結果発表	
調査書、推薦書		基礎学力試験(外国語)、小論文、面接		12/1	12/11	・外国語はコミュ英I・コミュ英II・コミュ英III/英語表現I・英語表現II
調査書、推薦書、志望理由書	1次	佐賀県教育委員会による書類審査	11/1 ~11/8	—	11/17頃	
調査書、推薦書、ポートフォリオ	2次	基礎学力試験(外国語、数学)、小論文、面接		12/1	12/11	・外国語はコミュ英I・コミュ英II・コミュ英III/英語表現I・英語表現II ・数学は数I・数II・数A・数Bで数Bは数列・ベクトル
調査書、推薦書、ポートフォリオ		面接(口頭試問を含む)、実技検査	11/1 ~11/8	12/1	12/11	・実技検査 ・静物彫彩・粘土による造形表現(試験時に手びねり又はロクロ成形から選択)から1 ・ポートフォリオは活動実績や作品をA4サイズ5ページ以内にまとめたもの ・入学志願者が募集人員の約4倍を超えた場合は、書類による第1次選考を行う場合がある
調査書、推薦書、志望理由書、特色加点申請書(任意)		小論文、面接(口頭試問を含む)	11/1 ~11/8	12/1	12/11	・商業系(商業高等学校の全科を含む)・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上)  ・普通科又はこれに準ずると本学部が認める科 ・出願要件の②については証明する資料を添付 ・「特色加点」とは志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度
調査書、推薦書、自己推薦書						・調査書の「4.学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9.備考」欄にその理由を必ず明記 ・入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類による第1次選考を行う場合がある ・セ試理科は物理・化学2科目必須 ・推薦人員は各高校2人以内
調査書、推薦書、自己推薦書、志望理由書、確約書		セ試得点、小論文、面接	11/1 ~11/8	12/2	2/7	・調査書の「4.学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9.備考」欄にその理由を必ず明記 ・保護者とは、子女に対して親権を行う者、親権を行う者がないときは、未成年後見人をいう。(本学部における保護者の定義(学校教育法から引用)) ・入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類による第1次選考を行う場合がある ・セ試理科は物理・化学2科目必須 ・合格者は県内医療活動に従事し、地域医療を担う人材を育成するための佐賀県医師修学資金の貸与を受けられる(5人以内) ・佐賀県医師修学資金については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ
調査書、推薦書、自己推薦書		小論文、面接	11/1 ~11/8	12/2	12/11	・調査書の「4.学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9.備考」欄にその理由を必ず明記 ・募集人員には、専門系の科及び総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上)を含む ・推薦人員は各高校2人以内
調査書、推薦書		基礎学力・学習カテスト、小論文、面接※	11/1 ~11/8	12/1	12/11	・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上) ・工業系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上) ・機械系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上) ・電気・電子・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上) ・土木・建築系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上)
調査書、推薦書		セ試得点	1/15 ~1/22	—	2/7	・セ試理科は物理科、機械システム工及び都市工で2科目のうち物理必須
調査書、推薦書、志望理由書		基礎学力・学習カテスト、小論文、面接※	11/1 ~11/8	12/2	12/12	・調査書の「9.備考」欄に学習成績概評が㊸の理由を明記 ・専門系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上) ・推薦人員は各高校の各課程から各学科に対し2人以内(ただし、生命機能科学科は1人)
調査書、推薦書、志望理由書		基礎学力・学習カテスト(生物環境科学科のみ)、小論文、面接※	11/1 ~11/8	12/2	12/12	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人員は各高校の各課程から各学科に対し2人以内

※口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野

提出書類	段階	試験				その他要件等
		試験方法	出願期間	試験日	結果発表	
調査書、所信書、確約書	1次	佐賀県による面接	11/1 ~11/6	11/11 11/12	11/14	・佐賀県在住者だけでなく、日本国内の居住者も対象 ・佐賀県から佐賀大学への推薦人数は6人程度 ・第1次選考については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ
佐賀県からの推薦書	2次	セ試得点、小論文、面接	11/17 ~11/22	12/2	2/7	・佐賀県が行う第1次選考を経て、佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第2次選考を受験する資格を得た者 ・セ試理科は物理・化学2科目必須

## 平成30年度特別入試(AO入試)出願資格・選抜方法

学部	学科・コース等	募集人員	セ試	出願資格および出願要件
教育学部	学校教育課程 小中連携教育コース (初等教育主専攻)	10		(1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校若しくは中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ② 通常の課程による12年の学校教育を平成28年4月以降に修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、体育、家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者
	学校教育課程 小中連携教育コース (中等教育主専攻)	8	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校若しくは中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ② 通常の課程による12年の学校教育を平成28年4月以降に修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者
芸術地域デザイン学部	芸術表現コース 美術・工芸分野	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ① 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者 ② 通常の課程による12年の学校教育を平成29年3月修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成29年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
	有田セラミック分野	5		
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース	15		(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ① 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者 ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成29年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

## 平成30年度特別入試(帰国子女、社会人、私費外国人留学生)出願資格・選抜方法

学部	学科	方式	募集人員	セ試	出願要件
医学部	医学科	帰国子女	若干人	×	日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者。ただし、平成28年3月31日以前に帰国(一時的な短期の帰国を除く)した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。 (1) 学校教育における12年の課程を平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-ALレベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (6) 国際的な評価団体(WASC、ACSI、CIS)から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者
理工学部	全学科		若干人		日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者とします。 (1) 学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を外国又は日本において、平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者で、卒業(修了)時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-ALレベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (6) 国際的な評価団体(WASC、ACSI、CIS)から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者
農学部	全学科		若干人		日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者とします。 (1) 学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を外国又は日本において、平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者で、卒業(修了)時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-ALレベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (6) 国際的な評価団体(WASC、ACSI、CIS)から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者
医学部	看護学科	社会人	若干人	×	平成30年4月1日現在、年齢が満21歳以上であり、3年以上社会人として経験を有し、看護学を修め、卒業後看護の分野で就業する意思のある者で、次のいずれかに該当する者。 (1) 高等学校若しくは中等教育学校(以下「高等学校」と言う)を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 注) 社会人の期間には、学校等(予備校、大学、専修学校高等課程・専門課程)の在学期間は含まない
教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部	私費外国人留学生		若干人	×	日本の国籍を有しない者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」(平成29年6月又は平成29年11月実施のいずれか、医学部は平成29年11月実施のみ)を受験し、平成28年1月以降にTOEFLを受験済みの者(経済学部を除く)で、次に掲げる入学資格を有する者 (1) 日本国外において、学校教育による12年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者 (2) 上記(1)に準ずる者で、文部科学大臣の指定する者
医学部	医学科		若干人		日本の国籍を有しない者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」(平成29年6月又は平成29年11月実施のいずれか、医学部は平成29年11月実施のみ)を受験し、平成28年1月以降にTOEFLを受験済みの者(経済学部を除く)で、次に掲げる入学資格を有する者 (1) 日本国外において、学校教育による12年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者 (2) 上記(1)に準ずる者で、文部科学大臣の指定する者

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

提出書類	試験				その他要件等
	試験方法	出願期間	試験日	結果発表	
調査書、志願理由書、 活動実績報告書	小論文、面接(口頭試問を含む)、 志望分野に関する適性検査	8/17 ~8/24	9/26 (音楽は 27も)	10/11	・適性検査内容 英語分野:英語の筆記試験(総合問題、英作文、要約問題) 理数分野:理科分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料(持参)をもとに発表及び質疑応答 音楽分野:専攻楽器(または声楽)の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 体育分野:基礎運動能力(背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げ) 家庭分野:献立作成と調理 ・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類により、第1次選考を行う場合がある
					・適性検査内容 英語分野:英語の筆記試験(総合問題、英作文、要約問題) 理数分野:理科分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料(持参)をもとに発表及び質疑応答 音楽分野:専攻楽器(または声楽)の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 保健体育分野:基礎運動能力(背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げから2)及び学校体育教材(バスケットボール、サッカー、バレーボールから2)における運動技能 家庭分野:献立作成と調理 技術分野:与えられたテーマについてレゴブロックを用いて作品をつくり、プレゼンテーション及び質疑応答 ・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類により、第1次選考を行う場合がある
調査書、志願理由書、 ポートフォリオ	志望分野に関する適性検査、面接	8/17 ~8/24	9/26	10/11	・適性検査内容 模擬授業を受講し、その後作品制作を行う ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類による第1次選考を行う場合がある
調査書、志願理由書、 特色加点申請書 (任意)	小論文、適性検査、面接				・適性検査内容 与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 ・「特色加点」とは志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度 ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類による第1次選考を行う場合がある

提出書類	試験				その他要件等
	試験方法	出願期間	試験日	結果発表	
証明書類	学力検査(数学・理科・外国語)、面接	11/1 ~11/8	2/25・26	3/8	・数学は数I・数II・数III・数A・数Bで数Bは数列・ベクトル ・理科は物基・物と化基・化 ・外国語はコ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II
	小論文、面接(口頭試問を含む)		12/1	12/11	
調査書等、成績証明書、 志願理由書	小論文、面接	11/1 ~11/8	12/2	12/11	
卒業証明書、成績証明書、 日本留学試験成績通知書、 TOEFL Official Score Report、 在留資格を確認できるもの	面接、日本語、実技検査	1/18 ~1/23	3/1	3/8	・試験内容は学部、学科及びコース等により異なる
	面接、学力検査(数学・理科・外国語)		2/25・26		・数学は数I・数II・数III・数A・数Bで数Bは数列・ベクトル ・理科は物基・物と化基・化 ・外国語はコ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II